

「続く中国の供給過剰」  
－16年1－6月データを分析－

目 次

1. 16年1-6月の粗鋼生産	1
2. 鋼材輸出	2
3. ビレット輸出	3
(1)16年1-6の推定輸出量	3
(2)棒鋼輸出の内訳	4
(3)向け先	5
(4)主要向先別状況	6
1)韓国	6
2)台湾	6
3)ベトナム	7
4)タイ	7
5)トルコ	8
「備考」鉄鉱石価格とビレット価格の動き	9

2016年8月3日

(株)鉄リサイクリング・リサーチ

代表取締役 林 誠一

14年の8億2,270万tをピークに減産に転じるとした中国の粗鋼生産は、15年は確かに2.3%減の8億383万tとなったものの、16年1-6月は前年同期を大きく越えるスピードで推移している。このため鉄鉱石輸入価格は55ドル/t前後で持ちこたえる一方、内需低迷は続いているため余剰分を捌く鋼材輸出や半製品（ビレット）の輸出は止まない。輸出量の16年上期からみた16年計は過去最高が予想される。

### 1. 粗鋼生産—16.1-6月 約4億t。減産計画の未達が否めない

7月15日中国統計局発表によれば6月の粗鋼生産は6,947万tとなり、前月をわずかに下回ったものの前年同月比では1.7%増を示した。16年になり1、2月は15年の減産基調を引き継いだものの、3月は全人代での内需喚起策と鋼材価格回復により粗鋼生産は月間過去最高、5月は歴代2位、6月は1日平均生産量が過去最高に達するなど高水準が続いている。背景に3、4月の鋼材価格高騰時に、「休眠」していた中小メーカーが復活し、①雇用調整が急には出来ない ②政府の内需喚起策を好感触に捕らえた投機行動 ③長江の記録的洪水災害に対する復旧需要を見越した思惑買いなどが挙げられている。中国経済は緩やかな鈍化傾向をたどっており、建設活動を現す固定資産投資の16年1-4月平均は前年同期比10.5%増、5月はずいぶん10%を切って9.6%を示している。過剰能力問題を内包している従来型製造業の潜在的な景気下押し圧力もあり、「実需を伴わない」生産状態と言えそうだ。

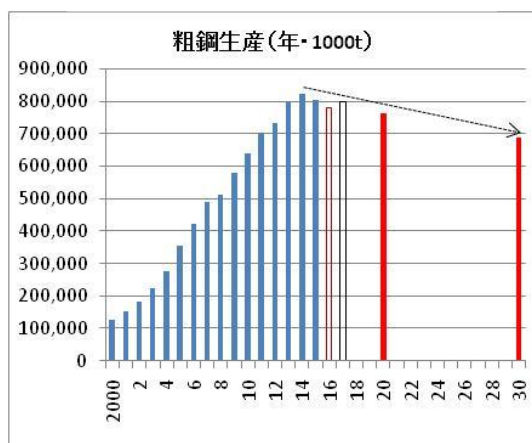
足元の1-6月粗鋼生産は3億9,956万t（WSA統計では4億110万t）の年換算は8億tのペースである。政府の16年見通し7億8,000万tに対しては、下期3億8,000万t（月間6,340万tペース）で推移しなければならず、もはや未達成が否めない。

今後は、鋼材価格の動向が注目されるが、それにしても3月～6月の累計4ヶ月の年換算は8億3,000万tを超える高レベルであり、史上最大である14年の8億2,300万tを軽く超える勢いであること。1億～1.5億の過剰設備調整が殆ど進んでいないことを現しているなどを念頭に入れておく必要がある。

図表1 粗鋼生産推移（月次）



図表2 粗鋼生産推移（年次）



## 2. 鋼材輸出—1-6月5,620万t過去最高水準

16年6月の鋼材輸出（銑鉄、フェロアロイ、鋳鉄管、二次製品を除く）は、高水準な粗鋼生産を反映して1,073万tとなった。暦日数が少なく春慶節もあった2月を除くと5ヶ月連続前年同月を上回る。その結果、16年1-6月累計は**5,620万t**となり、上半期の過去最高を記録した。

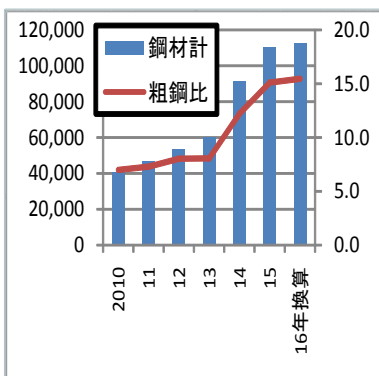
品種別では合金鋼添加ビレットを含む棒鋼と合金鋼鋼板が鋼材全体の約50%を占める。この2品目とも9%~13%の増値税還付制度の享受ができる品目(備考参照)である。また銑鉄や鋼半製品（ビレット）は25%の輸出関税を16年1月より10%および20%に引き下げているが、ほとんどその効果は現れていない。向け先別では、アジアが全体の約6割となっており、うちASEAN10が4割近くを占める。国別では韓国向けが710万tを占め最大輸出国であって2010年以降から見ても変わっていない。韓国向け707万tの品種別は合金鋼鋼板220万t、合金鋼添加ビレットを含む棒鋼170万tが全体の55%を占め、他はその他表面処理鋼板84万t、線材58.5万t、亜鉛めっき鋼板58.5万t、形鋼56万t、鋼管23万t等である。

東南アジアなど多くの国による保護貿易が実施されているなか、人民元安の傾向も加わり、安価な中国材を求める海外需要家の動きが止まない。従って下期もこのペースで進む傾向強く、16年計は15年の1億1,015万tを超える最高水準が予想される。粗鋼生産に占める輸出分を試算すると10年の7%から15.5%となる2.2倍増が見込まれる。こうした中国の鋼材輸出供出は、安価で大量なため先進製鉄国をはじめとする世界の鉄鋼輸出国の収益を圧迫し、一部では倒産に追い込まれる企業も現れている。

図表5 鋼材輸出と対粗鋼生産比推移  
単位1000t、%

	鋼材計	粗鋼生産	粗鋼比
2010	40,649	638,743	7.0
11	46,615	701,968	7.3
12	53,433	731,040	8.0
13	60,184	822,000	8.1
14	91,413	822,698	12.2
15	110,146	803,825	15.1
16.1-6	56,195	399,560	15.5
16年換算	112,390	799,120	15.5

備考：粗鋼比は(鋼材\*1.1)/粗鋼で算定



図表3 品種別鉄鋼輸出  
単位1000t、%

	16.1-6月	構成比
銑鉄	140	
フェロアロイ	178	
鋼塊半製品	6	0.0
軌条・付属品	215	0.4
鋼矢板	191	0.3
形鋼	2,665	4.7
棒鋼	17,976	32.0
線材	5,812	10.3
厚中板	206	0.4
熱薄板類	94	0.2
冷延鋼板類	1,334	2.4
亜鉛めっき鋼板	4,693	8.4
ブリキ	637	1.1
テンフリー	122	0.2
他表面処理	4,467	7.9
電磁鋼板	206	0.4
合金鋼鋼板	10,379	18.5
ステンレス鋼板	1,483	2.6
鋼管	4,524	8.1
線類	1,187	2.1
鋼材計	56,195	100.0
鋳鉄管	307	
二次製品	2,503	
全鉄鋼計	59,324	

データ：日本鉄鋼連盟(中国海関統計)

図表4 鋼材輸出向け先  
単位1000t、%

	16.1-6	構成比
日本	578	1.0
韓国	7,073	12.6
台湾	1,378	2.5
香港	1,154	2.1
ベトナム	6,349	11.3
タイ	3,733	6.6
シンガポール	1,424	2.5
マレーシア	1,552	2.8
フィリピン	3,342	5.9
インドネシア	2,927	5.2
他ASEAN	1,339	2.4
ASEAN10計	20,666	36.8
インド	1,939	3.5
バングラ	715	1.3
アジア計	35,980	64.0
中東	5,996	10.7
EU28	3,271	5.8
トルコ	1,288	2.3
他欧州	764	1.4
アメリカ	415	0.7
カナダ	281	0.5
中南米	3,402	6.1
アフリカ	4,409	7.8
大洋州	390	0.7
鋼材計	56,195	100.0

備考：アジア計にはその他含む

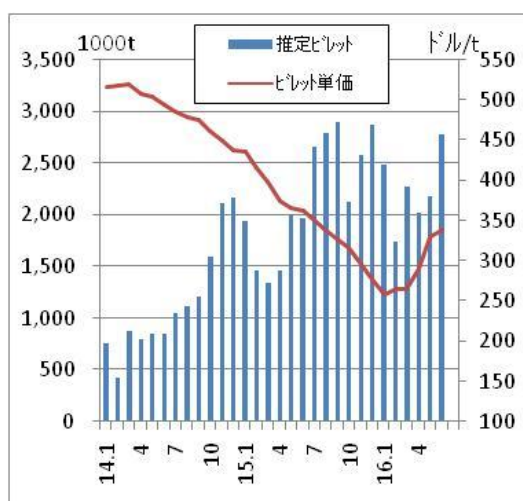
### 3. ビレット輸出—増勢止まず16年は2,700万tを予想

#### (1)16年1-6月の推定輸出量

16年6月の合金鋼添加ビレット輸出は278.5万tとなり、15年9月290万t、12月286.6万tに次ぐ史上第3位の高水準となった。平均単価は「本物」のその他合金鋼添加棒鋼を推定約20%を含むHS72283090のトータルだが339ドル/tであり、16年1-6月中では高額(下表)となった。

この結果、16年1-6月累計は1,350万tとなり、前年同期の1,016万tを33%上回る。一方1-6月の平均単価は281ドル/tであり前年同期の398ドル/tに対して29%減である。輸入鉄鉱石スポット価格が60ドル/tから52.1ドル/tに13%低下していることが寄与していると推察される。単価は16年1月の258ドル/tを底に上昇に転じているが、ベトナムのSG発令があっても安値、増量の方角に変化は起きていない。16年トータルは、14年、15年ともに下期に輸出量が上昇するパターンを描いているが、上期並みとしても2,700万tとなり、過去最高となることが予想される。

図表6 中国の推定ビレット輸出量



	1000t 推定ビレット	ドル/t ビレット単価	ドル/t 鉄鉱石価格
16.1	2,487	258	42.00
2	1,739	264	47.10
3	2,278	265	57.10
4	2,015	290	60.26
5	2,184	330	54.61
6	2,785	339	51.71
16.1-6	13,487	281.0	52.1
15.1-6	10,163	398.0	60.0
前年比	32.7	-29.4	-13.0

備考:ビレット単価=72283090の平均  
鉄鉱石価格=上海輸入スポット価格

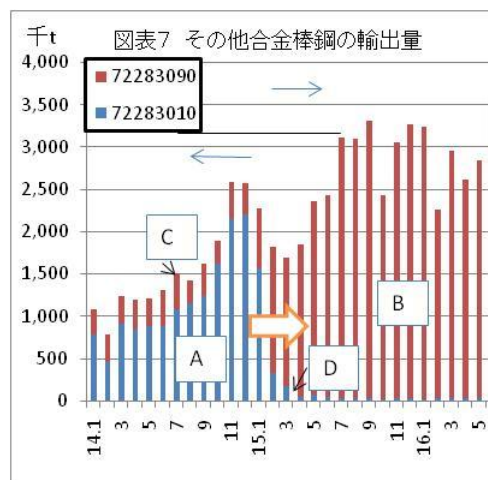
#### 「備考」経緯と推計手法

中国は内需使用を原則とする目的で銑鉄、フェロアロイ、鉄スクラップ、ビレット等の鋼半製品に対して高い輸出関税を設定している。こうした経緯のなか、内需減速に伴い16年1月より銑鉄の関税率は25%→10%、鋼半製品は25%→20%に引き下げたが、1-6月の実績ではまだその効果は現れていないのは前述した。特にビレットは建設向け鉄筋棒鋼製造のための高炉材を主とする半製品だが、内需不振による余剰処理のため14年中ぐらいから輸出が顕在化している。しかし輸出にあたっては、品目コード鋼半製品HS7207では25%(16年1月から20%)賦課がかかるため、合金鋼を添加した「その他合金鋼棒鋼」HS722830を使用して行われている。付加価値鋼材の輸出を促進するにあたり、合金鋼品種について13%の増値税還付制度を設けて

おり、この享受ができるためと推察される。

この品名コードでは、HS722830「その他合金棒鋼」のうち15年12月まではHS722830010「ボロン合金鋼を含むもの」として普通鋼ビレットに少量のボロンを添加し13%の還付を享受してきた。しかし16年1月以降ボロン添加鋼材に対する増値税還付制度が廃止されたため、クロム等を添加して13%の還付が残る「その他の合金鋼棒鋼その他のもの」HS72283090にシフトして継続している。

ビレット輸出量の推計は①HS722830010 からHS72283090 へのシフトの確認と②それぞれの品目コードに内在する本来の合金鋼棒鋼との分離にある。①は2つの品名コードを加えた時系列を14年から分析した。図表7に示すように制度改定があった15年初を境にHS722830010 からHS72283090 へAからBへシフトして輸出していることが明白である。次に②については、金額(単価)に格差があることを利用して選別しようとしたが、国によっては「本物」と「添加ビレット」の両方を輸入しているケースがあり数値上の区別



が難しい。そこで14年期間中のCのシェア(平均23.9%)をBに含む「本物」のその他合金鋼棒鋼とし、BよりCシェアを除いた。また、Dは現在もわずかだが続く本物のボロン添加棒鋼であり、これには増値税還付されないためビレットは含まれないとした。後述の(4)に述べる国別はCの値を当該国別に算出して推計している。いずれにせよ14年のシェアを適用している点で時間が経つほど現状から離れるであろう問題点を持つ。

「本物」は機械構造用合金鋼棒鋼など、鉄筋棒鋼ではなく機械部品に製造される棒鋼と推察され、機械産業が盛んな先進国や中進国に輸出されていると考察される。日本にも3,000t/月～5,000t/月程度入着しており入着量が固定している。添加ビレットとは単価が異なる(高い)。

## (2) 棒鋼輸出の内訳

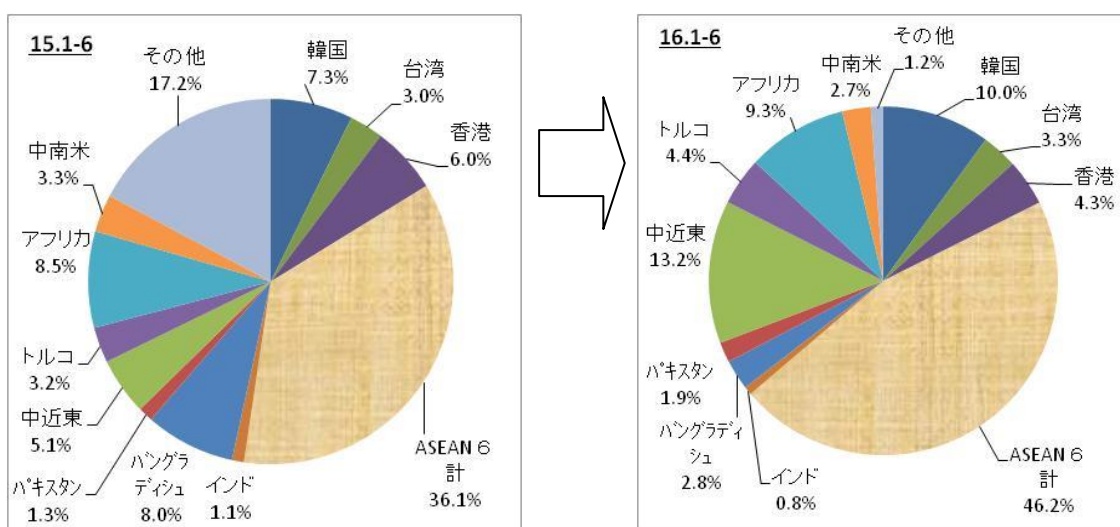
16.1-6月のビレット輸出推計値は、2頁図表3で示した棒鋼輸出量1,798万tのうち75%を占め、また「本物」を含めた合金鋼棒鋼が97%以上を占め、普通鋼棒鋼は3%弱程度と推計される。13%の増値税還付は棒鋼輸出の96.5%が享受したと推察される。

		単位1000t、%				
				72283010	72283090	72283090
	棒鋼計	普通鋼	合金鋼	ボロン鋼	他合金鋼	推定ビレット
16.1-6	17,976	472	17,504	150	3,867	13,487
構成比	100.0	2.6	97.4	0.8	21.5	75.0

(3) 向け先—主力アジア変わらないが、ASEAN 6、中近東でウエイト増

16.1—6月 1,350 万 t の向け先は、アジア（韓国～パキスタン）向けが主力であることは変わらないが、前年同期に比べ ASEAN 6 を増加させ、アジア全体のウエイト増に繋がった。ASEAN 6 ではベトナム向けは S G が発令されて減少したものの、タイとマレーシアで増加し、6月の両国むけビレット輸出量は過去最高を記録した。タイ向け 1—6月 170 万 t はすでに 15 年の 141 万 t を超えている（タイについて後述）。他では中近東向けの増加が目立つ。

図表 8 16.1—6月の輸出向け先



	中国のビレット輸出(推定)					粗鋼生産(WSA)	
	2014	2015	16.1-6	構成比	前年同期比	2014	2015
韓国	1,349	2,289	1,345	10.0	81.8	71,543	69,670
中国						822,750	803,825
台湾	753	730	447	3.3	47.0	23,121	21,370
香港	773	1,361	581	4.3	-4.0		
ベトナム	307	1,484	554	4.1	42.8	5,847	6,050
タイ	350	1,410	1,702	12.6	259.8	4,095	3,673
シンガポール	842	992	451	3.3	-20.1	575	510
マレーシア	296	539	319	2.4	40.9	4,316	4,100
インドネシア	1,311	2,402	1,698	12.6	117.1	4,428	4,200
フィリピン	1,943	2,686	1,504	11.2	21.4	1,196	1,140
ASEAN6計	5,050	9,513	6,228	46.2	69.6	20,457	19,673
インド	287	293	104	0.8	-3.5	87,292	89,400
バングラディッシュ	93	1,203	377	2.8	-53.5	90	
パキスタン	197	347	254	1.9	92.5	2,423	2,892
中近東	1,434	1,857	1,786	13.2	246.0	29,986	29,429
トルコ	193	1,493	598	4.4	86.5	34,035	31,517
アフリカ	1,201	2,413	1,255	9.3	44.9	14,885	13,682
中南米	398	769	358	2.7	5.5	45,043	44,900
その他	2,053	3,818		0.0	-91.1		
計	13,781	26,086	13,487	100.0	32.7	1,669,894	1,620,900

#### (4) 主要向先別状況

##### 1) 韓国—増勢止まず 16年 1-6月は前年同期比 82%増

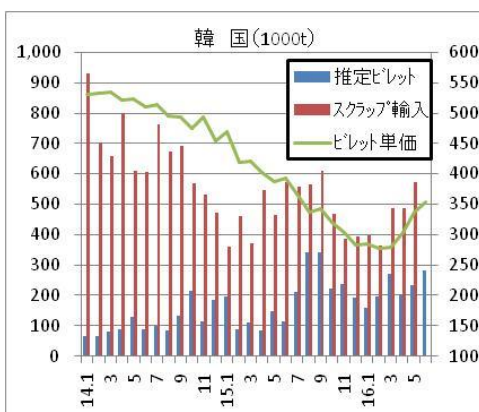
6月の韓国向け中国ビレット輸出量は28.3万t（前月比22%増、前年同月比2.5倍）となり、16年1～6月中最高を記録した。この結果、1-6月累計は134.5万tとなり、前年同期を81.8%上回った。ビレット輸出量1,350万tの約10%を占める。1-5月のスクラップ輸入量231万tは前年同期比4.7%増に留まっている。

このペースで下期も推移するとすれば16年計は270万t近くの過去最大となることが予想される。前年比約40万t増により、スクラップ輸入量にも影響が出そうだ。

1-6月の粗鋼生産は3,335万t（前年同期比3.4%減）であり、輸出不振の影響を受けあまり元気でない。ここにきて現代製鉄唐津第1高炉の不調も加わっている。電炉生産も一時回復したが中国ビレット入着増もあり不透明感が強い。

図表9 韓国

	単位1000t、%		
	中国ビレット	スクラップ輸入	日本輸出
2014	1,349	8,002	3810
2015	2,289	5,757	3105
16.1	160	397	305
2	197	365	260
3	270	488	258
4	203	485	268
5	232	573	308
6	<b>283</b>		
16.1-6	<b>1,345</b>		
15.1-6	740		
前年同期比	<b>81.8</b>		
16見込	<b>2,690</b>		

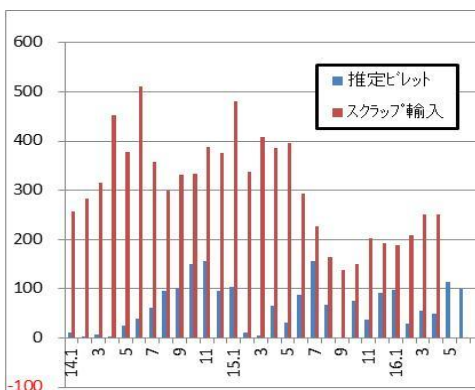


##### 2) 台湾—16年は過去最高に！

台湾経済は中国向け輸出の不振から低迷が続いている。1-6月の粗鋼生産は1,057万t（前年同期比7.4%減）だった。しかし6月のビレット入着量は約10万tとなり、1-6月計45万tは、前年同期比47%増の水準である。下期を上期並みとすれば16年計は89万tが見込まれ過去最高水準となる。従ってスクラップ輸入量も抑制されざるを得ないだろう。

図表10 台湾

	単位1000t、%		
	中国ビレット	スクラップ輸入	日本輸出
2014	753	4,279	607
2015	730	3,373	923
16.1	98	189	59
2	30	209	101
3	56	250	98
4	50	251	120
5	114		133
6	<b>99</b>		
16.1-6	<b>447</b>		
15.1-6	304		
前年同期比	<b>47.2</b>		
16見込	<b>894</b>		



### 3) ベトナム－SG 効果でビレット減、スクラップ輸入増

3月22日より200日の期限付きで実施されているビレットに対するセーフガード(以下SG)税23.3%により、中国のベトナム向けビレット輸出量は、1月の21万tを最後に2月以降5万t前後に劇的に減少している。替わってスクラップ輸入が14年や15年央の月間40万t近くを回復しつつある。

日本としては、6月に経済産業省が不公正貿易報告書でWTO協定違反の疑いを指摘したほか、日本鉄鋼連盟や普通鋼電炉工業会は公聴会の場で意見書を出すなど反論してきた。200日以降の対処が注目されるが、このほどベトナム競争庁は、2020年以降を0%とし、17年から20年3月21日まで各年を2%ずつ引き下げる方針を発表した。本件に関して今後の動向が注視される。発表どおりに進捗すれば、月間35万tから40万tのスクラップ輸入が向こう3年間は安定的に続くことが(棒鋼の需要進度によっては拡大も)期待される。

図表11 ベトナム

#### セーフガード関税率

現行	23.3%
17年3月21日まで	23.3%
18年3月21日まで	21.3%
19年3月21日まで	19.3%
20年3月21日まで	17.3%
20年3月22日以降	0.0%

データ: Vietnam Competition Authority

	単位1000t、%			
	中国ビレット	ビレット単価	スクラップ輸入	合計
16.1	215	249	172	387
2	71	254	189	260
3	91	263	337	428
4	52	292	368	420
5	70	349	369	439
6	55	345	379	434
16.1-6	554	292	1,814	2,368
15.1-6	388	400	1,430	1,817
増減率	42.9	-27.0	26.9	30.3
合計は中国ビレット+スクラップ輸入				



### 4) タイ

15年の粗鋼生産367万tはベトナムの6割程度の規模である。前年比約10%減少した。生産は全て電炉法によっているが、スクラップ輸入量は94.5万tほどしかなく、しかも前年を32%弱下回った。16年の経済は堅調に推移しており、粗鋼生産の回復も見込まれるが、中国の多量なビレット入着が電炉生産活動に大きく影響していると推察される。6月のビレット量は月間過去最高の40万tを超え、1-6月累計は170万tとなる。もはや前年の141万tを越えた。このペースのまま下期も推移するとすれば、



中国ビレット入着量が昨年の電炉粗鋼生産量とほぼ同一となる。棒鋼マーケットが倍になるほど活況化していることは考えにくく、ベトナムに次ぐSG発令は時間の問題と思える。いずれにせよスクラップ輸入量は15年の94.5万tから更に減退せざるを得ないだろう。

図表 12 タイ

単位1000t、ドル/t、%		
	推定ビレット	単価
16.1	196.4	258
2	229.5	251
3	386.7	258
4	297.5	283
5	190.0	318
6	401.6	324
16.1-6	<b>1701.8</b>	
15.1-6	473.4	
増減率	<b>259.5</b>	



### 5) トルコ

16年1-6月の粗鋼生産は1,650万tであり、前年を3.2%上回った。16年計は3,300万tが見込まれるが、12年の過去最大3,590万tに対して10%弱減の水準である。中近東、アフリカ等鋼材の輸出先に中国材が出回り苦戦していると推察されている。15年の電炉シェアは65%、電炉粗鋼生産は2,050万t(前年比13.8%減)だが、鉄スクラップ輸入量は1,625万t(同14.8%減)であり、中国ビレットが前年比7.7倍となっていることがスクラップ輸入を抑制したと推察される。

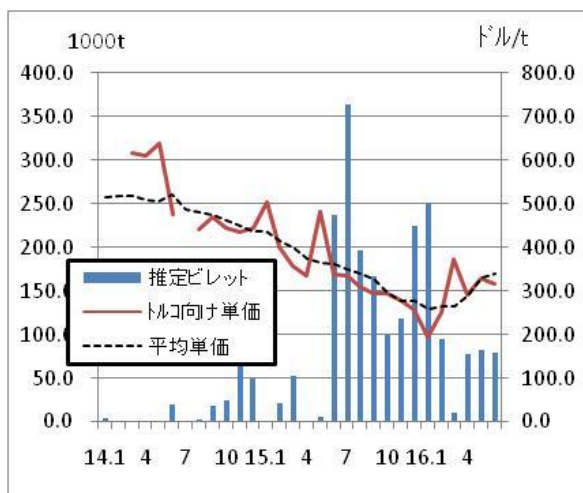
	単位1000t、%		
	電炉粗鋼	スクラップ輸入	中国ビレット
2014	23,752	19,068	193
2015	20,475	16,251	1,493
前年比	-13.8	-14.8	673.6

16年6月の中国のトルコ向けビレット輸出量は7.9万t、単価は316ドル/tだった。トルコ向け価格は3月に373ドル/tに高騰し、輸出量は1万tまで激減したため、鉄源不足を補うスクラップ買いが、世界のスクラップ市況の高騰を招く一因となったことは前号トピックスでふれた。その後4月~6月は平均よりやや安値、量は8万t/月前後で推移している。しかし1-6月計の前年同期比は量で約9割増しの90万t、一方、平均単価291ドル/tは28%安であり、安価、多売の方向性は変わっていない。従って16年は下期の電炉生産次第だが、低迷が継続すればスクラップ輸入量はさらに抑制されることが見込まれる。

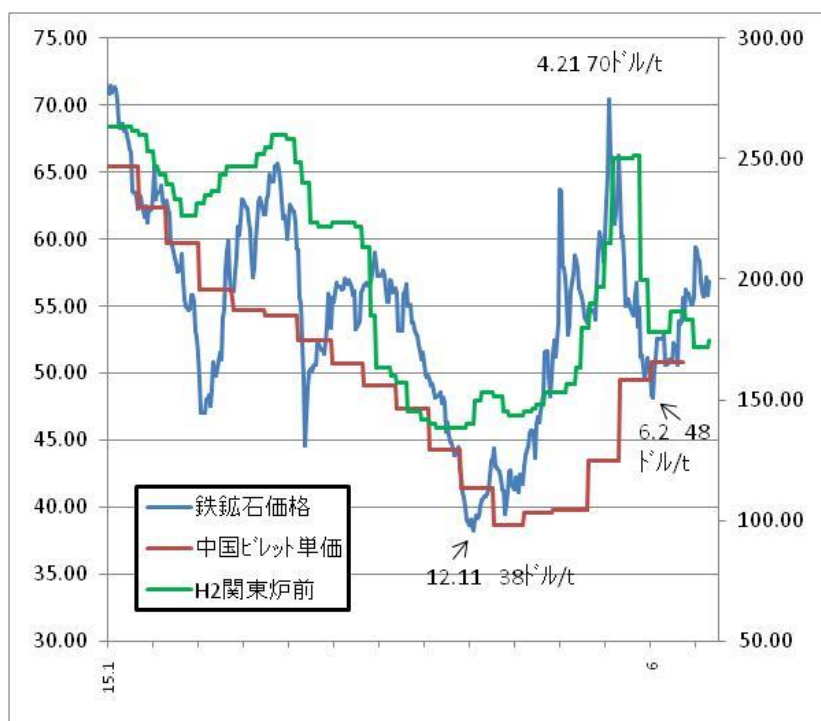
図表 12 トルコ

単位1000t、ドル/t、%				
	中国ビレット	単価ドル	平均単価	平均差異
16.1	251.9	193.0	258	-65.0
2	95.0	249.0	264	-15.0
3	10.9	373.0	265	108.0
4	78.1	290.0	290	0.0
5	82.8	329.0	330	-1.0
6	79.1	316.0	339	-23.0
16.1-6	597.8	291.7	291	0.7
15.1-6	320.6	403.2	392.0	11.2
前年比	86.5	-27.7	-25.8	

備考;平均単価は14年1-12月はHS72283010、15年1月以降はHS72283009の平均単価。



「備考」 鉄鉱石価格（中国上海輸入スポット価格）と推定ビレット輸出価格の動き



鉄鉱石価格が4/21の70ドルをピークに6/2には48ドル/tまで低下したあと55ドル強で推移している動きに対して、ビレット価格は16年1月の258ドル/tを底に上昇に転じた後6月は339ドル/tとなっており、未だ下降局面を向かえていない。鉄鉱石価格の動きからすれば、やがて下降するパターンとなるが小康状態で推移するか注目点である。

調査レポート NO 37

「続く中国の供給過剰」

発行 2016年8月3日(水)

住所 〒300-1622 茨城県北相馬郡利根町布川 253-271

発行者 ㈱鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一